# ２学年　　音楽科ガイダンスシラバス　　教科担当　平岩雅代

１．音楽学習のねらい

・曲想と音楽の構造や背景との関わりや、音楽の多様性について理解できる力を養う。
・自分なりの創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ、歌唱や器楽演奏、創作などの活動を通して表現できる力を育てる。
・音楽を形づくる要素や要素同士の関連を理解させ、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、理解したこと感受したこととの関わりについて考えたり、どのように表すかについての思いや意図をもったり、音楽を評価しながら、良さや美しさを味わえる力を育てる。
・歌唱や器楽の表現、鑑賞や創作の体験を通して、音楽や音楽文化に親しむことのできるよう、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に表現や鑑賞の学習活動に取り組ませる。
・音楽の基礎的な表現や知識を身につけることで、多様な音楽や音楽表現の背景としての人間の歴史や文化を考えたり、芸術の豊かさを自らの人生に生かせる力を育てる。

２．学習方法

・美しい発声のしくみを理解し、楽曲に適した音量と音色、表現方法で歌唱したり、仲間と協力しながら、合唱を作り上げる学習に取り組む。
・楽器のしくみや特性を理解し、楽曲に適した音量と音色、表現方法で演奏する。
・基礎的な創作活動に取り組む。
・楽曲の背景・歴史と曲想の関わりを考えながら、主体的・協働的に音楽を鑑賞する。
・音楽を形づくる要素について理解し、楽曲との関連を考える。
・楽曲について曲想を感じ取り、根拠をもって評価・批評する。

３．学習教材の管理（教材の整理、持ち物、提出物、）

・学習教材（音楽の教科書、器楽の教科書、合唱曲集、ファイル、楽器、音楽袋など）
・教室、音楽室での自分の教材の管理や移動について、責任をもって取り組む。
・提出物は期限内に提出する。教材忘れは貸出を受けて授業に参加する。

４．学習の観点と評価方法

①「知識・技能」音楽の構造や背景との関り及び音楽の多様性について理解している。
②「思考・判断・表現」音楽を形づくる要素の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関りについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもっている。
③「主体的に学習に取り組む態度」音楽や音楽活動に親しみながら、主体的・協働的に、表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
（　発声練習・パート練習・全体練習活動への取り組み・発言・ワークシートの作成
　学習教材の整理・提出物（期限内）、実技テスト、定期テストの取組みなど

５．アドバイス

１．授業規律を整える（チャイム着席、教材を揃える、授業に積極的に取り組む）
２．恥ずかしい気持ちを克服して、自分なりの音楽表現の工夫に積極的に取り組む。
３．実技のテストなどでは、精一杯、自分なりの音楽表現に挑戦する。
４．提出物は期限厳守。「定期テスト」は授業内容からの出題。授業に集中し内容をしっかりノートしてプリント等の資料をきちんとファイルに整理しておく。

６．音楽科　年間学習計画

| 期 | 月 | 単元名・学習内容 | 学習の目標 | 評価方法 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ４<br>５<br>６<br>７ | 豊かな響きを作ろう<br>「葉の花」「歴史のうた」<br>音の重なりや言葉の抑揚を生かして歌唱表現を工夫しよう<br>アカペラ「歓喜の歌」<br>曲想と音楽の構造との関りを理解して、その魅力を味わおう<br>「交響曲第５番ハ短調」 | 中学生の発声のしくみや響きを理解し、仲間と歌う喜びを分かち合い、主体的協働的に歌唱の学習に取り組もうとしている。<br>音色・リズム・旋律・強弱・形式を理解しそれらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、どの様に歌うかに自分なりの意図や思いをもっている。合唱練習に主体的、協働的に取り組もうとしている。<br>・楽曲の形式（ソナタ形式や）音色・旋律テクスチュア・形式などを理解し、それらの働きと曲想との関わりについて自分なりに考えたり感じたりしながら聴き味わっている。 | 授業観察<br>ワークシート<br>実技テスト<br>授業観察<br>ワークシート<br>期末考査 |
| 2 | ９<br>１０<br>１１<br>１２ | 歌詞のメッセージを理解して<br>歌唱表現しよう<br>合唱コンクール<br>課題曲・自由曲<br>日本の郷土芸能や伝統音楽の魅力を味わおう<br>アルトリコーダーリズムアンサンブル<br>音の重なりや反復、変化を感じながら曲の構成を味わおう<br>「フーガト短調」 | ・混声３部全体の響きに気をつけながらパートの役割を感じ、歌詞の内容と曲想の関わりを考えて音色・速度・強弱に生かしながら歌唱表現を工夫することができる。<br>・合唱コンクールへの参加を通して、他学年や他クラスの楽曲の曲想に関心をもって聴いたり、異学年交流などの合唱練習に主体的・協働的に取り組めた。<br>楽器の構造を生かした奏法を工夫しながら、美しい音色や響きで演奏できる。<br>リズムの反復や変化、重なり方や強弱の効果を意識し全体構成をとらえ演奏できる。<br>楽曲の特徴ある構成とその効果を理解している。また、曲の背景や作曲者の思いや意図と曲想の関りを感じながら聴き味わうことができる。音色・旋律・テクスチュアなどを理解して、それらの働きと曲想との関わりについて、自分なりの考えをもって聴くことができる。 | 授業観察<br>実技テスト<br>演奏観察<br>ワークシート<br>ワークシート<br>授業観察 |
| 3 | １<br>２<br>３ | 世界の音楽に親しもう<br>オペラ・ミューカル<br>仲間とともに、表情豊かに合唱しよう<br>（卒業式）<br>「旅立ちの日に」<br>「心の中にきらめいて」 | 諸外国の音楽の特徴と、そこから生まれる音楽の多様性を理解するとともに、音楽表現の共通性や固有性について考えることができる。<br>曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関りについ　て理解するとともに。それらを生かした、曲に　ふさわしい歌唱表現を創意工夫して、主体的、　協働的に歌唱に取り組むことができる。 | ワークシート<br>授業観察<br>実技テスト |